



新年研修会・表彰状伝達式・祝賀会

町長講話「平成31年度重点事業・高齢者事業について」

平成31年1月18日(金)町文化センターにおいて、町老連主催の新年研修会・表彰状伝達式・祝賀会が開催された。参加者は、来賓・役員・単位クラブ会員代表など百四十余名であった。

会の進行は前半を山内誠一郎監事、後半を木村美智子副会長が務めた。

○挨拶 館山新一町老連会長



新年の挨拶と来賓各位への謝辞を述べた後、実施事業として老連主催の「県外研修旅行」(岩手県田代野畑村)、関係各機関の協力による「うたごえ広場」、中南郡老連と共催の「芸能発表会」を取り上げ、多くの参加者による有意義な会であったので、今後も新しい企画を実施していきたい旨話した。しかし、活動の原点は、単位ク

ラブ・専門部の活動にあると考え、地域との繋がりを念頭に置いた諸活動を是非計画・実施して欲しいと話した。今年の干支「亥」にちなんで元氣よく活躍し、「明るく元氣で仲良く健康長寿」を目指したいので協力方をよくしくと挨拶した。

○祝辞 西澤正規県老連常務理事

介護保険と健康寿命について話したいと述べ、介護保険については、高齢化に伴い財政負担も保険料負担も青森県は当初の2倍以上になっていること、今後は認知症患者の増加が予想されることなどから、地域で支え合う仕組みづくりの重要性を強調した。日常生活を不自由なく過ごせる健康寿命については、青森県の男性特に壮年期の平均寿命の短さが問題であり、先進県(山梨県)の例を示し、これまた地域での支え合いの大切さを話した。以上のことから地域との繋がりの強い老人クラブの重要性を強調し、祝辞とした。

○講話 平田博幸藤崎町長

藤崎町長新年の抱負 (平成31年1月)

発行者

藤崎町老人クラブ連合会
広報委員会
藤崎老人福祉センター内
電話 七五―三三三二

『りんご“ふじ” 発祥の地藤崎町の魅力』(14頁)をもとに、スライドを利用し短い限られた時間内で多岐にわたって手際よく話した。



平田町長講話 重点事業・高齢者対策・イベント

町長の政治の原点となったのは、平成31年9月28日の台風19号によるりんご園の壊滅的な被害を、全国的な組織の助けを借りながら最小限に抑えることのできたことであるとし、地域住民が元氣を取り戻す手助けをすることが政治の役割であるとした。また、8町歩の農地の無償提供が農水省の試験場の誘致と

りんご“ふじ”の誕生につながったことを紹介し、時には大胆な投資が必要であることを示唆した。

超少子高齢化と経済のグローバル化の中、藤崎の生き残る道として、他と異なる魅力ある町づくりと地場産業の高次元化をはかり、ふるさと応援大使梅沢富美男氏の協力やふじさき食彩テラスを拠点に、その魅力を国・世界へと広く発信し、それが町の活性化と町民の幸せにつながることを願っていることであった。その財源としては、ふるさと納税や国の諸交付金を活用し、ハード面の整備・地域活性化事業・福祉事業の拡充をはかり、さらに産官学と連携し、「協働」「希望」「活力」をコンセプトとする第2次総合計画の実現により、町の更なる発展につなげるため、町民の全面的な協力を願うという、ふるさとにかける熱い思いが伝わってくる講話であった。

配付資料

※平成31年度 重点事業(4頁)

※平成31年度高齢者事業(5頁)

今年はこの他に

※平成30年度町のイベント(写真)

○県知事・県老連会長表彰状伝達式

※県知事表彰

老人クラブ育成功労者

大川 雄弘(広報委員長)

優良老人クラブ

西中野目長寿会

(会長 石井 哲子)

※県老連会長表彰

高木 昌祐(常盤養命会)



県老連会長表彰 高木昌祐氏(常盤養命会長)

女性部総会のお知らせ

一、日時 3月19日(火) 10時より

二、場所 藤崎老人福祉センター 集会室2

三、案件

- (1)平成30年度事業報告・収支決算について
- (2)平成31年度事業計画(案)・収支予算(案)について
- (3)役員改選について
- (4)その他

四、講話 演題「私の小さな旅」温泉巡り」

講師 津軽新報社記者 齋藤 馨氏

五、参加費 五〇〇円(弁当代)当日集金

六、申込〆切 3月11日(月)

土岐 憲一 (新町福寿会)
古川 慶次 (福島老人クラブ)
佐々木栄次郎(若松すこやかクラブ)
工藤 祐子 (みつや長寿会)

○祝賀会

来賓祝辞は、平田博幸藤崎町長・横山哲英副議長が述べた。祝吟は山内誠一郎町老連監事が「寒梅」を吟詠し、神勝衛社会福祉協議会会長が乾杯の音頭をとった。予定された時間まで、表彰者へのお祝いと情報交換をし、会員相互の親睦を深めた。



祝賀会で挨拶する横山副議長



表彰者と来賓・老連役員を囲んで記念撮影

体力測定 スポーツ吹き矢 講習会のお知らせ

体力測定は今回で7回目を数え、老連健康事業として定着しました。

今回は体力測定に加えて「みずほ教育福祉財団」支援事業のスポーツ吹き矢による健康的な呼吸法の講習会を開催します。体力の維持・健康づくりのために、多数ご参加下さい。

1、日時 3月15日(金)10時〜12時

2、会場 スポーツプラザ藤崎

3、参集範囲 老人クラブ会員および一般町民

4、体力測定の種目

①握力	④開眼片足立ち
②上体起こし	⑤10m障害物歩行
③長座体前屈	⑥6分間歩行

5、スポーツ吹き矢講習会

講師 青森県スポーツ吹き矢協会

三上由香里 上級指導員(スポーツプラザ藤崎館長)

6、補助員 藤崎町スポーツ指導員・推進委員

7、体力測定手帳について

これまでの参加者は、記録の手帳を持参して下さい。初めての参加者には、手帳を無料配布します。

8、持参する物

運動できる服装と室内運動靴を持参して下さい。

9、申込み・連絡先

藤崎老人福祉センター 七五―三三三二
常盤老人福祉センター 六五―二〇五六
スポーツプラザ藤崎 七五―三三三三

七、申込先 藤崎老人福祉センター」窓口まで

※①女性部に興味のある方、役員として一緒に活動してみませんか。

※②総会終了後「ゲーム」を予定しています。是非ご参加下さい。

ゲーム参加希望者は賞品等の都合がありますので、総会の参加申込の時にご記入下さい。

3 月 行 事 予 定 表			
日	曜	行 事	時刻
1	金	芸能部	12:00
2	土		
3	日		
4	月	役員会 芸能部	10:00 12:00
5	火	日本舞踊部	12:00
6	水	茶道部	13:00
7	木	囲碁・将棋部	12:30
8	金	芸能部	12:00
9	土		
10	日		
11	月	生け花部	10:30
12	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
13	水		
14	木		
15	金	体力測定・吹き矢講習会 芸能部	10:00 12:00
16	土		
17	日		
18	月	芸能部	12:00
19	火	女性部総会 囲碁・将棋部	10:00 12:30
20	水	広報委員会	13:30
21	木	春分の日	
22	金	芸能部	12:00
23	土		
24	日		
25	月	生け花部 芸能部総会	10:30 11:00
26	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
27	水	茶道部	13:00
28	木	囲碁・将棋部 芸能部	12:30 12:00
29	金		
30	土	【白寿】配布日	12時以降
31	日		

寒さの中、熱戦続き大いに盛り上がる

中南郡老連スポーツ交流会

中南郡老連主催（大鰐町老連主管）のスポーツ交流会が1月29日(火)大鰐町総合福祉センター集会室においてペタンク8チーム（24人）・フロッカー8チーム（24人）役員、競技指導員合計60名で開催された。

館山中南郡老連会長のあいさつと激励の後大鰐町スポーツ推進委員の紹介及び津軽弁の体操と実演による競技の説明があった。

競技はトーナメント戦による4コートに分かれて熱戦が始まった。

ペタンク・フロッカーの種目は初めて競技する人が殆どで、それでも競技が進行中は、声援や歓声が上がり大いに盛り上がった。

決勝戦はペタンク種目では藤崎 A チーム（加福孝二、加福哲三、清野正慶）と藤崎 B チーム（白戸 治、唐牛秋雄、山内誠一郎）の藤崎老連代表の対戦となり藤崎 A チームが優勝した。

フロッカー種目の決勝戦は大鰐 A チーム（藤田光代、銭谷としえ、福田清治）と藤崎 B チーム（三上 一、三上道子、高木洋一）の対戦となり大鰐 A チームが優勝し残念ながら藤崎 B チームは準優勝となった。

競技終了後に参加者全員で弁当を食べながら懇親会となり、成績発表、表彰式が行われ、岩間副会長（田舎館村老連会長）の講評で全員の健闘を讃え、来年の再会を約束し、幕を閉じた。

中南郡スポーツ交流会懇親会



ペタンク優勝（加福哲、加福孝、清野）



フロッカー競技風景

若返りが進み、最多参加者で盛り上がる

老連冬季トランプ大会

老連トランプ大会は、2月17日(日)藤崎老人福祉センターで行われた。参加者はスタッフを含め86名で、今までの大会で最高を記録した。

優勝は小杉繁一（仲町登喜和会）が獲得し、28点の得点は他を寄せ付けなかった。

受賞者は下表の通りある。



順位	氏名	所属	得点
優勝	小杉 繁一	仲町	28
準優勝	中田 智敏	館川	19
3	白取喜代栄	三ツ木	18
4	白取 功	水沢	16
5	成田 良三	矢沢	13
6	斎藤 繁	朝日町	12
7	笹森一萬夫	徳下	11
8	土岐 憲一	新町	10
9	鈴木美津雄	水木	10
10	小笠原正成	表町	10
11	三上 明	福島	10
12	古川千九八	福島	10
13	兵藤 正勝	福島	10
14	古川 亮一	福島	10
15	木村 方亮	福島	10
16	平沢 寿夫	若松	10
17	横山 哲英	水木	10
18	工藤 仁	柏木堰	10
19	大柳 健一	水木	10
20	野呂 多口	新町	10
21	浅利 岩雄	徳下	10
22	横山 強	伝馬	10
23	三上 光男	小畑	10
24	神 俊吉	水木	10
25	間山 由吉	小畑	10
26	成田 和三	福島	10
27	小畑 和	福島	10

予備賞…15～70位迄5番刻み、当日賞…17日で17番 当年賞…31年で31番



藤崎町に伝わる昔話と伝説

(26)

狐が幽霊になる

鈴木 政四郎

昔、黒石にこんど、と言う広告を廻す若者がいた。其の人はよく人を騙すことや、畜生にいたづらする事が好きでした。

或る日、水木村に広告を廻す事になり黒石より徳下を通り沢田土手の所のサンコ橋を渡り、広々とした砂原の所までくると、大きな狐が一匹、ごう！ごう！と軒を叩いて道端で寝そべっていた。其れを見た彼の広告廻し、この狐を一度驚がしてやれ、どうゆう面貌するがとの悪心が起き、自分の首に下げていた法螺貝を取り出して、狐の耳元にこっそり、ごうおん！と一吹き鳴らしたらたまらない。今まで何んの余念もなく寝そべっていた狐、気も狂わんばかりに驚いて、グアグエーと叫び水木村の方に後を振り返り、振り返り逃げ去った。狐の姿が見えなくなると、広告廻しのこんど、ああおがしな顔をした、

巷のいぼれ話



おもしろいものだ！と一人喜び吠いて水木村の広告廻しも終り、福左内へと急いだのであった。其れでも何んの事もなく廻し終へ一時も早く家に帰ろうと村端の所までくると少し薄暗いような気がした。まだ時間も早いのに変だと思いつ、墓地を見ると村に入る時無かった端の所に新しい墓盛が一つ道の右側にある。誰かこの村で死んだ人があって己が村に入ってから埋葬したのだろうと。急いでそこを通り抜けようとする、其の新らしい墓盛が二つにちやつく割れ、其の中からは赤・青・黄種々の火を体中につけポツポツと燃えている幽霊がオアチ、オアチと近づいてくる。其れを見たこんど、聞くも初め見るも初めの幽霊なので、驚きと怖さが重なり、どうする事も出来ない。丁度近くに一本の松の木があったので早速木登りを始めた。こんどが登れば幽霊も登る。どうする事も出来ない。今は絶対絶命と覚悟をきめ、登れる所まで登れと木の一番しんこまで登ってしまったが、あわや、枝が細いため人の重みでボキリと折れ、あつと云う間もなく地上に落下。其のまま気を失い？何時たつたであろう、ばさりと風が草をゆする音で眼がさめた。見ると日は高く真昼ではないか、よく見ると其こは墓場の真中であつた。こんどは、気を落ちつかせてよく考えて見ると、附近には新らしい墓盛の影さえなく狐の足跡が二・三地上に残っているのみではつとした。こんど、今朝の狐を驚がした仕返しに己をも驚がしたのに相違いないと木から落ちた体の痛さを我慢して家に帰った。

出典…鈴木政四郎著「津軽むかしこ」第49講【狐が幽霊になる】を参考・引用し、読み易くしたものです。

歯なしの話 84

「○○終い」・「地味○○」

佐藤 透

右記の言葉が昨今流行っている様である。

「○○終い」は【白寿】一五八号「無題」にて年賀状の休養宣言の形で年賀状を書くのを休みたい旨の文章を載せた。面白いのは、これに何人かの方が反応してくれた事である。一人は電話をくれた。一人は年賀状に一

筆書かれていた。又、一人は手紙やハガキで様々な意見を述べてくれている。更に一人はわざわざ我が家まで会いに来てくれた方もいた。今までの継続的な行為に対し、中止するとか休止するとか言う、人は何故という疑問を持つようである。

「○○終い」のもう一つは「墓終い」である。核家族化が進んだせいか、本家・別家などの繋がりも弱くなり、はた又。高学歴化が進み過ぎて、地方に帰れなくなったり、少子化のせいかで、中々墓を維持するのが難しい時代の背景があるように見受けられるのだが。

一方「地味○○」であるが、例えば「地味婚」は昔のように結婚式に百人、二百人と呼ぶのではなく、内々の又は友人達のパーティーにするというのが今流の様である。家と家同士より、身近な友人達を大事にするという考え方であろうか。

もう一つは「地味葬」である。文字に書いてある通り、やはりこれも大々的に葬儀をしないと言うことである。最近新聞を見て、いつも通夜・葬式は終了しましたと言う通知が多い。普通の通夜・葬儀をすると、バタバタと時を奪われ、大事な方を送り出したり最後に過ごしたりする時間がどうしても足りなくなるので、出来れば最後は身内だけにしたいということなのだろうか。そして気の利いた人たちは後ほどに送る会を行う旨の広告を出している。これもまた、時代の流れなのかも知れない。

以上はいずれも個人の主張が以前に比べ出しやすい時代になったと言うことであろうと想像する。

我が家の墓地は弘前にあるのだが、ある時期に放置された墓が一所に集められ、まとめて祀られていた。江戸時代のものなど放っておかれたままになっていたのが、忍びなかったが、よかったと思う。

短歌

人間の脳動映す超絶夢

人の力じゃ永遠に解けない

浅利 茂雄

付き添へる義姉の前髪そつと触る

無言の兄の指ぞいとときき

藤村みち女

旅行して買ったソックスかかと擦れ

もったいなくて今宵繕う

笹森 一郎

だれだってその時うるたえる

老母が僕を忘れてしまう日

福井 伝馬

この春で閉校校舎のがらんど

「ふじ」発祥の地農家も減って

清水稼志男